

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ・レバノン関係：トルコ人パイロット2名の拉致事件

(現地報道取り纏め)

8月9日、レバノンで起こったトルコ人パイロット2名の拉致事件の概要および要人発言に関し、現地での報道振りは以下のとおり。

1. 事件概要

- (1) 8月9日午前、トルコ航空イスタンブル・ベイルート間定期就航便乗務員をベイルート空港から市内に輸送するサービス・バスが、途中で4名からなる武装グループにより止められ、ムラット・アクプナル機長及びムラット・アージャ副機長の2名が拉致された。同サービス・バスに乗り合わせていた7名の乗務員に危害はなく、同日午後には同機とともにイスタンブルに戻っている。なお、トルコ外務省は同事件発生後トルコ国民に対してレバノンへの渡航注意喚起を発出するとともに、レバノンに滞在するトルコ人に対しては可能な限りレバノンから退去するよう促した。
- (2) 同事件は、「イマーム・レザーの訪問者達」と呼ばれるグループにより実行された。昨年5月、レバノンからイランを巡礼訪問した11名のシーア派レバノン人が帰路においてシリアのアザズ近郊にて自由シリア軍により拉致されたと言われており、うち2名がトルコ政府の仲介により釈放されている。同グループはトルコ人パイロット2名の身柄と引き換えに、シリアで身柄を拘束されていると言われる9名のレバノン人の釈放を要求している。

2. 今回の事件に関する要人の発言

- (1) ダヴトオール外相  
サービス・バスに乗り合わせたチーフ・パーサーから事件の概要を聴取した。在レバノン・トルコ大使館が、事件発生直後からレバノン政府と連絡を取っている。また、私自身もベッリ・レバノン国会議長及びミーカーティー・レバノン首相と話をした。過去の事例と同様に、今回拉致されたトルコ人パイロット2名が無事にトルコに帰国できるように我々は最善を尽くしている。
- (2) オズユルドゥズ在レバノン・トルコ大使  
レバノンでは、トルコ人パイロットがベイルート市外で身柄を拘束されているだとか、拉

致事件はヒズブッラーによって計画されただとか様々な報道がなされているが、それを確証するような公式な情報は得ていない。

レバノン当局からは、2人のトルコ人パイロットの健康状態は良いと聞いていて、ネガティブな情報は得ていない。(今回の事件に関し)レバノン政府は最善を尽くしており、レバノンに居住するトルコ人の身の安全にも慎重な措置を執っている。

(3) ミーカーティー・レバノン首相

レバノンの全治安機関は、拉致されたトルコ人パイロットの捜索と救出に向けて努力している。どのような理由であれ、拉致は許されない。イランへの巡礼訪問の帰路に拉致されたレバノン人の身柄の釈放を求めて不当な別の拉致事件を起こすことは許されない。

(4) マンスール・レバノン外相

トルコ人パイロットの拉致事件は、レバノンの治安と安定に対する大きな打撃である。しかし、レバノンとトルコのこれまでの政治、経済、文化関係には影響しない。良い結果が得られるよう、レバノン及びトルコ両政府当局により話し合いが続けられている。トルコ人パイロット2名は絶対に救出される。

---

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799